

わ か く さ ニ ュ ー ス

令和6年8月14日発行
令和6年8月号 No. 59

横浜市金沢区泥亀 2-12-1
TEL: 045-784-6900

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部神奈川県済生会
特別養護老人ホーム わかくさ



1.1 七夕 行事食

そうめん
(ずわい蟹・錦糸卵・星人参・万能葱)
天ぷら
(海老・穴子・南瓜・茄子・ししとう)
スッキーニとカワラワの
胡麻和え、白桃羹

手作りおやつ
カステラ
来月のお食事もご期待ください！





～地域交流活動～

特養わかくさでは、地域の皆様にひらかれた施設を目指しており、その一環として、多目的室を開放しております。現在、「かもめ教室」さんにご利用いただいておりますので、ご紹介させていただきます。

当施設の1階（正面玄関を入れて右手側）に多目的室があります。スクール形式で54席が配置でき、施設内の会議やイベントなどで使用しています。また、多目的室は地域交流室として地域の皆さんに使用していただくことも考えて整備しました。ところが、令和2年7月の開所以来、コロナ禍の中で思うように地域交流活動ができない状況が続いていました。

そんな中、昨年、横浜市金沢区及び区社協から話をいただき、区内で暮らす外国籍の小中学生の日本語教室の会場として、本年4月から毎週木曜日の午後に施設の多目的室（地域交流室）を開放しています。当施設として地域交流のスタートを切りました。

この教室は「かもめ教室」という名称で、外国籍の子供たちが学校の放課後に当施設に来て日本語の勉強や宿題に取り組んでいます。「かもめ教室」はNPO法人横浜金沢国際交流の会さんが運営されており、ボランティアの方が小中学生にマンツーマンで日本語を教えています。ボランティアの中には、学校の先生だった人や日本語の先生だった人もいらっしゃいます。

私たちは学習には直接関与していませんが、来日間もなく日本の生活にもまだ慣れない子供もおり、一生懸命に日本語を勉強する子供たちを陰ながら応援しています。せっかく高齢者施設を会場として使っていただいていることから、いずれは当施設の入居者さんと「かもめ教室」で学ぶ子供たちとの交流が実現することを願っています。

施設長 清水 雅



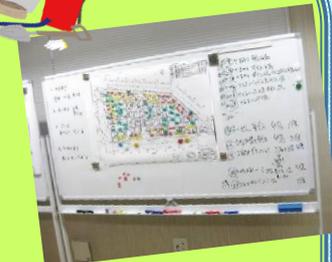
特養わかくさ委員会紹介 【防火防災委員会】

防火・防災管理委員会は、施設職員及び委託業者含め11名で構成されています。昨今、甚大なる災害に備え、火災・地震・津波・夜間想定等の避難訓練や事業継続に関わる事項などを検討しております。

特にわかくさの場所は海拔1mほどしかなく、水害による浸水地域となります。特に避難では垂直避難を求められます。認知症など意思疎通が難しい方の避難は大変困難です。しかし、入居者様の安全の為に、限られた人材での避難は効率よく行わなければなりません。そこで、ホワイトボードに施設平面図を拡大したもの、入居者様の状況を模したマグネットを用意し、避難方法のシュミレーションを行っています。

また、事業継続を行う上で、物資は必須であり、物品の保管場所や、飲料水、電源確保等を委員会で検討を行い、職員に周知し、来たる災害に備えています。

防火防災対策委員会 委員長 清水 紀明



随 想



「キヤー！誰か助けて～」

気が付いた時、私は大声で叫んでいました。

その日は晴天に恵まれ、絶好のレジャー日和でした。そこで近所の方たちと、評判の海水浴場に行くことになりました。出掛けに母からは「そこは水が透明だから知らないうちに深いところまで行ってしまうんだってよ。だから事故も多いみたいだから気をつけてね」と言われていました。

しかしコバルトブルーの海を真っ白な波しぶきをあげて走る船に揺られ、30分後に目的地に到着した時には母の言葉はすっかり忘れていました。真っ白な砂浜でヤドカリを追いかけたり、砂山を造って遊んだ後、泳げない私は浮き輪を頼りに海へ入っていきましました。大きな浮き輪に身体を乗せて、ザーザーという波音を聞きながら澄み渡る青空を眺めプカプカ揺られていました。どれくらいの時間そうしていたのか？気付くと足が海底につかない深さまで流されてしまっていました。



焦った！

幸い叫んでいる私に気が付いてくれた方が、私の浮き輪のひもをつかんで浅瀬迄引っ張って行ってくれました。命拾いした私が今此処にいる。

40年以上前の出来事だが、時の経つのも忘れて無心でゆらゆら揺られていたあの夏の日の出来事を懐かしく思い出します。



医務課長 高橋 律子

わかくさの理念「ともにあなたらしさの虹をえがく」
基本方針
・良質なサービスを提供します・向上心を持った職員が接します
・地域との連携を図ります
・笑顔が絶えない施設をつくりまします